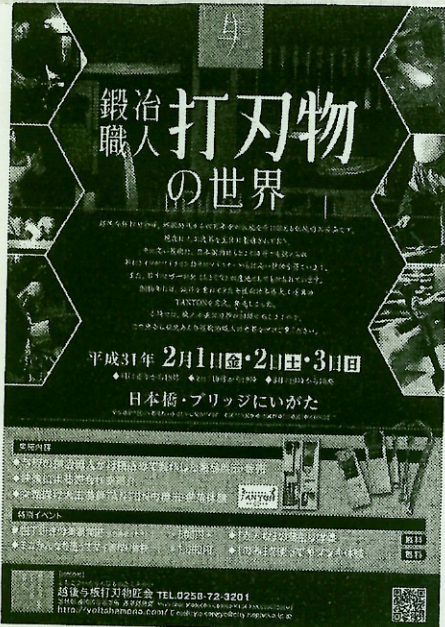


日本刃物工具新聞

2019年1月20日(日曜日)



「鍛冶職人 打刃物の世界」展

越後与板会 東京・日本橋で2月1日～3日開催
打刃物匠

越後与板打刃物匠会(事務局)長岡市与板支所産業

建設課(は2月1日から3日までの3日間、東京・中

央区日本橋室町の「日本橋・ブリッジにいがた」(だ)いし東京ビル1階で、恒例の「鍛冶職人 打刃物の世界」と題した展示会を開

催す。

越後与板打刃物は、戦国時代から400年余の伝統を今に伝える

伝統工芸品。現在は大工道具を主体に製造されており、その高い技術は日本国内だけでなく

海外でも認められており、特にドイツのバイオリン作りのマイスターからは高い評価を得ている。

また、日本で唯一の斬(ちような)の産地としても知られている。2015年には、試作を重ねてきた女性向け本格大工道具「TANTON」を完成、発売した。

今回の展示会では、①与板の鍛冶職人が丹精を込めて製作した製品展示・販売②映像による匠会作家の紹介③女性向け大工道具「TANTON」の展示・使用体験を行う。

また、特別イベントとして、①包丁研ぎの実演(1本500円から)②「のみ」を使ってキット体験(無料)③「かんなの薄削り体験」(1000円)を実施する。

料③「かんなの薄削り体験」無料④「のみ」を使ってマイ箸作り体験(1膳1000円)を実施する。